

【 11月18日(日) 室蘭民報(朝刊) 1面 】

# 「年に1回はCT検査を」



**がん**  
を  
**防ごう**

室蘭でシンポ

## 早期発見と 治療法解説

「がん対策推進シンポジウム」(胆振総合振興局、リレー・フォー・ライフ室蘭実行委員会共催)が17日、室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院がん診療センターで開かれ、市民ら約150人が「最新の肺がん治療」について学んだ。

日鋼記念病院の中田寛章呼吸器内科科長は「内科的治療」について解説。早期発見には「年1回はコンピュータ断層撮影装置(CT)の検査を」と強調。進行期の肺がんは化学療法、免疫療法、放射線療法などを用いて、「日常生活の質を良好に保ちながら、病気を

肺がんの内科的・外科的治療の現状などについて理解を深めた「がん対策推進シンポジウム」

とつまぐ付き合っところ」ことを目標としている」と説明。予防につながる「禁煙」の大切さも訴えた。

製鉄記念室蘭病院の長谷龍之介呼吸器外科科長は、完全胸腔鏡手術の長所として、「傷が小さく、肋骨や呼吸に関わる筋肉も切らないため、身体への負担は少ない」と説明。術後合併症の肺炎が喫煙者に多い現状や、喫煙者の手術は4週間禁煙後に行う実情にも触れ、「喫煙は肺がんの原因となるだけでなく、術後合併症の危険も増加させる」とも話した。

一方、榊原典幸・日鋼記念病院歯科口腔外科主任科長は、がん患者が安心して治療を受けられるための口腔管理の大切さなどを説いた。同局の廣島孝保健環境部長は「がん対策と受動喫煙防止」について解説した。

(松岡秀宣)